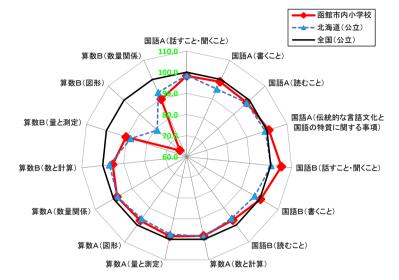
■函館市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:46校、児童数:1651人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの

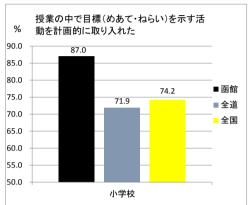
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



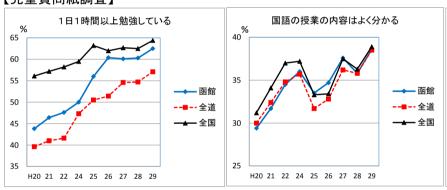
【函館市の平均正答率】

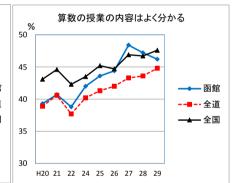
	国語A	国語B	算数A	算数B
函館市	75.1	57.6	76.8	42.6
全道	73.7	56.3	77.3	43.5
全国	74.8	57.5	78.6	45.9

【学校質問紙調査】



【児童質問紙調査】





【分析】

- 国語A・Bにおいて、全国の平均正答率を上回って いる。 算数Aにおいて、全道の平均正答率とほぼ同様に なっている。 国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に 関する事項」で全国を上回り、「書くこと」「読むこ 教 科 と」で全道を上回っている。 ○ 国語Bでは、「話すこと・聞くこと」「書くこと」で全国 を上回り、「読むこと」で全道を上回っている。 算数Aでは、「量と測定」「図形」「数量関係」、Bで は、「量と測定」で全道を上回っている。 「算数の授業内容はよく分かる」と回答した児童の 割合が、全道を上回っている。 児童質問紙 「授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を 計画的に取り入れた」と回答した学校の割合が、 学校質問紙 全国を上回っている。
-) 各学校において、教員が授業の冒頭で目標を提示するなど、分かりやすい授業の実施に努めた結果、基礎的・基本的な学力が向上したと考えられる。
- 児童の家庭学習習慣の定着に向けた取組を 推進した結果、家庭学習の習慣が定着し、学 習時間の増加に結び付いていると考えられ る。

【函館市の学力向上策】

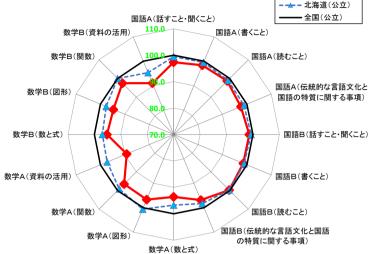
- ◎ 学校教育推進の指針「アプローチ」に基づく、各学校の組織的な教育活動の推進
- ◎ 各学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研修会の実施(「アクティブ・ラーニング推進事業」)
- ◎ 学力向上プロジェクト推進委員会による各種調査の分析および、学力向上に向けた効果的な指導方法等の研究の推進
- ◎ 市内を10のブロックに分け、小・中学校が連携し、共同して授業研究を行う取組の推進

函館市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:25校、生徒数:1698人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで

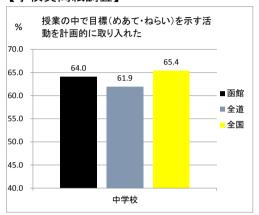
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出) - 函館市内山学校 → = 北海道(公立) 国語A(話すこと・聞くこと) - 全国(公立) 110.0 数学B(資料の活用) 国語A(書くこと) 数学B(関数) 国語A(読むこと)



【函館市の平均正答率】

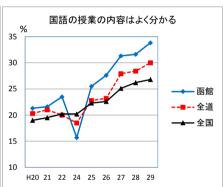
		国語B	数学A	数学B
函館市	75.7	71.7	61.2	45.5
全道	76.7	71.7	63.7	46.9
全国	77.4	72.2	64.6	48.1

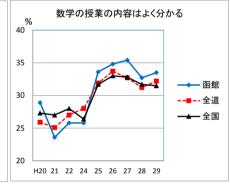
【学校質問紙調査】



【生徒質問紙調査】







【分析】

- 国語Bにおいて、全道の平均正答率と同じであ 数学Bにおいて、全道の平均正答率とほぼ同様に なっている。 科 教 国語Bでは、「読むこと」で全道と同じである。 数学Bでは、「関数」で全国とほぼ同様になってい 「家で、学校の宿題をしている」と回答した生徒の 割合が、全国及び全道を上回っている。 生徒質問紙 「授業の中で目標(めあて・ねらい)を示す活動を 計画的に取り入れた」と回答した学校の割合が、 学校質問紙 全道を上回っている。
- 各学校において、教員が授業の冒頭で目標を提示するなど、分かりやすい授業の実施に 努めた結果、基礎的・基本的な学力が向上し たと考えられる。
- 生徒の家庭学習習慣の定着に向けた取組を 推進した結果、家庭学習の習慣が定着し、学 習時間の増加に結び付いていると考えられ る。

【函館市の学力向上策】

- 学校教育推進の指針「アプローチ」に基づく、各学校の組織的な教育活動の推進
- 各学校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた研修会の実施(「アクティブ・ラーニング推進事業」)
- 学力向上プロジェクト推進委員会による各種調査の分析および、学力向上に向けた効果的な指導方法等の研究の推進
- ◎ 市内を10のブロックに分け、小・中学校が連携し、共同して授業研究を行う取組の推進